

郷土研究 伊丹公論

復刊
第20号
通巻 39号

年 4 回発行
(次号は 8 月 31 日予定)

発行所
伊丹市立図書館ことば蔵
〒664-0895
伊丹市宮ノ前3-7-14
☎072・784・8170
編集
伊丹公論編集委員会

地域住民も楽しめる

伊丹空港ビルがリニューアルオープン

2年後の全面改修に向け整備が進められている大阪国際空港（伊丹空港）ターミナルビルの一部が4月18日にリニューアルオープンした。南北に分かれていた到着ロビーを1カ所に集約して旅客の利便性が向上、屋上展望デッキと商店街が充実し地域住民にも楽しめる施設に生まれ変わった。地域経済の活性化につながる伊丹空港のにぎわい復活に期待が高まる。

半世紀ぶりの大規模改修

ターミナルビル（地上8階地下2階）は大阪万博の前年、昭和44年（1969）に開業。今回の大規模改修は、大阪国際空港ターミナルビル

式会社解散が平成28年（2016）2月に着手、同年4月からは関西国際・大阪国際両空港の経営権を取得した関西エアポート株式会社が引き継いで進めていた。

旅客の利便性向上

今回リニューアルオープンした中央エリアでは、これまで北エリア1階が日本航空（JAL）、南エリア1階が全日本空



手荷物を受け取りロビーに出てくる旅客たち。そのまま進めばモノレールの駅だ



展望デッキから飛行機をながめる人たち

屋上エリアでは、展望デッキが滑走路側に約20倍せり出し、面積が約1.5倍に拡大。飛行機の離着陸をより間近で楽しめるようになった。また、ステージも常設され、イベントがいつでも可能だ。空港が地域住民にとっても気軽に訪れ楽しめる場所になった。

県観光・物産情報コーナーも中央エリア2階には、県が「INFORMATION ひょうご・関西」を開設。兵庫をはじめ

伊丹スカイパークが開園 10 周年

年間 64 万人が訪れる人気スポットに



スカイパークで楽しむ親子連れら

大阪国際空港（伊丹空港）の滑走路西隣にある伊丹スカイパークが今年7月、10周年を迎える。

この公園は、航空機騒音の軽減と周辺地域の生活環境改善を目的に、「大阪国際空港周辺緑地」として平成5年から国・兵庫県・伊丹市が共同で整備、平成20年（2008）7月

より、南側遊具広場の一角に阪神間の公園では初めてとなる乳幼児用遊具エリアが誕生した。虫や草花をイメージしたすべり台などの遊具があり、エリア内すべてに落下や転倒時の衝撃を吸収するゴムチップ舗装が施され、安全に配慮されている。

市外からの来園者が多いことから、昨年7月末には、パークセンター内売店に伊丹特産品コーナーが一目見えした。伊丹市観光物産協会の取扱商品のうち、伊丹市マスコット「たみまる」のぬいぐるみやストラップ、神津ひょうたん、村重抹茶飴といった伊丹らしい商品が用意されている。売店は土・日曜、祝日のみ営業。

伊丹スカイパークは、老若男女が楽しめるスポットへと進化を続けている。



一般内覧会に参加して

本紙編集スタッフの一人である私、池田は、子どものころから大の

幅増設や多くの商品が並ぶ折れ曲がった通路の間を利用者が歩いて回る、ウォークスルー型商業エリアのオープンも予定されている。

いっそうの空港活性化に期待

経済の発展において空港の果たす役割は大きい。関西エアポートは関空と伊丹空港に続いて神戸空港の運営権も取得し、今年4月から3空港一体運営がスタート。競合するので

はなく適切な役割分担を果たしていくことで3空港のいっそうの発展が期待されている。

現在、国際線は関空に限定することが妥当とされ、伊丹空港と神戸空港には運用時間や発着回数に制限が設けられている。3空港のポテンシャル発揮に向け、今年開催が予定される自治体と経済団体でつくる「関西3空港懇談会」で新しい活用案が打ち出されるのか注目される。

（池田 安久）

坂上田村麻呂が狩獵 仕留めた大鹿が地名に

郷土史
こぼれ話
20

「本朝百将伝 より」国立国会図書館
デジタルコレクションより転載



伊丹の歴史は、逸話や伝説で彩られている。超有名なのは奈良時代の行基にまつわる鮒や石の伝説であるが、大鹿の地名にも坂上田村麻呂由来の逸話が残されている。奈良から平安を少しのぞいてみよう。

「蒸し米（ムシゴメ）で祝う大化の改新」と覚えた645年を経て、701年

大宝律令が完成した日本は、天皇を頂点とする律令国家体制を整えた。そのころ伊丹廃寺が造られ、聖武天皇の時代の731年には、行基が来て昆陽池を拓いた。度々移された都は、「鳴くようぐいす平安京」の794年、桓武天皇は遷都を断行、その後京都は千年の都として落ち着いた。

坂上田村麻呂（758年～811年）が登場するのは、その桓武天皇の時代である。

坂上家は代々武門に優れ朝廷家の信望が厚い家柄であったが、田村麻呂は天皇をよく補佐し征夷大將軍として特に東北の反乱を鎮圧するなど大きな武功があった。清水寺の建立にも関わったとされる。811年死去。山城の国に葬られた。田村麻呂は全国に多くの伝説を残しているが、伊

丹に伝わるのは大鹿の地名の由来である。

「807（大同2）年、平城帝の御宇、阪（坂）上田村麻呂本郡大物浦に宿泊の途次、北方の荒野に狩りを試み、此地に來り森林中に大鹿を獲たに因り、後世村名とせる旨村史にある由一書に記する所にして又田村麻呂の子孫この地に住居せることを現今に至るも全村を通じて阪（坂）上姓の大多数なるに徴し明確なりしといふ」（川辺郡誌）

書かれた通り大鹿には坂上（阪上）姓が多い。江戸時代を代表する伊丹の銘酒「剣菱」は大鹿産であるが、その醸造元も坂上（勘三郎・津国屋）姓である。

ちなみに郵便番号簿で全国の「大鹿」の地名を探すと、伊丹を入れて

地区民総出の顕彰劇は爆笑の連続だったが、子どもの感想文も楽しかった。「云うはずだったせりふが、大人の人がまちがえてとばしてしまつて、云えなくなつて残念でした」（大鹿のおしばいのおもいで）

（郷土史研究家 森本 啓一）



しおりんピック金メダルの森川さん



センター本に選ばれた安東さん

長野県大鹿村、新潟県妙高市大鹿、新潟市大鹿、滋賀県東原市大鹿の5例であるが、田村麻呂伝説は伊丹だけである。

大鹿地区では、平成19年（2007）、田村麻呂の歴史を顕彰し「伊丹大鹿誕生1200年ふれあいの祭典」（大鹿景観形成協議会主催・大鹿自治会共催）と銘打って2日間盛大に祝った。

地区民総出の顕彰劇は爆笑の連続だったが、子どもの感想文も楽しかった。「云うはずだったせりふが、大人の人がまちがえてとばしてしまつて、云えなくなつて残念でした」（大鹿のおしばいのおもいで）

（郷土史研究家 森本 啓一）

この物語は、15年間という短い月日を、精いっぱい生ききた妖精兵の女の子の物語である。最強にして最高の涙を、あなたに。

「お姫様になりたい」「プロとサッカーしたい」「上から風船を見たい」

こども作戦会議で自ら叶えた

ことば蔵



ドレス姿をお披露目する女の子たち



サッカー選手と勝負する男の子

ことば蔵を利用する小学生たちが「こども作戦会議」と銘打って自分たちの夢をみんなで実行する作戦を練り、今年3月3日、「お姫様になる」「サッカー選手と戦う」「屋上から風船を飛ばし上からそれを見る」の3つの作戦を実現させた。

こども作戦会議は、ことば蔵で

やつてみたいイベントなどを市民が企画し実行する「交流フロア運営会議」の子ども版。小学1年から4年までの10人が昨年10月から2月まで月1回集まり準備を進めた。

第1回会議では、子どもたちから「世界中のチョコレートを食べる」「金メダリストの北島康介選手に水泳を教えてもらう」など100を超える数のアイデアが飛び出した。その中から自分が一番やりたいことを各自選び、そのイメージを絵に表現して発表し合った。

第2回では、10件に絞られたアイデアについて司書が関連する図書を提供し、子どもたちはそれらを読んでやりたいことの

イメージを具体化。最終的にお姫様、サッカー、風船飛ばしという3作戦の実施を決めた。

お姫様のドレスのデザインを考える、サッカー選手に手紙を書く、小学校の運動場を借りたいと校長先生にお願いに行く、風船に手紙と花の種を付けて飛ばすための浮力を計算する、各作戦のちらしを作成して配布するなどの準備をそれぞれ進め、3月3日、同時進行で実行に移した。

お姫様班には、3歳から小学4年生までの10人が参加。ポリ袋や水切りネットなどの身近な生活用品を使って4色のドレスを作り、ことば蔵1階交流フロアの特設ステージで保護者らにドレス姿を披露した。

サッカー班では、目標とした日本代表選手の招待はかなわなかったが、関西リーグのクラブチーム「ASランジャ京都」の選手7人とコーチの招待に成功。11人の子どもたちが伊丹小学校の運動場でミニゲームを楽しんだ。試合の後にはことば蔵で選手ら

と懇談。子どもたちは「どうやってらフェイントが上手になるのか」などと次々に質問し、各選手の答にメモを取って真剣に聞き入っていた。

風船班では、中心メンバーが風船にヘリウムガスを入れたり手紙を書いて付けたりといった準備を進め、サッカーとお姫様のイベント終了後に参加者全員で、ことば蔵の庭から一斉に約50個の風船を飛ばした。このとき、同作戦に賛同した市民が、ドローン（無人航空機）を飛ばして上空から撮影したため、「風船を飛ばすところを上から見たい」という願いも実現した。

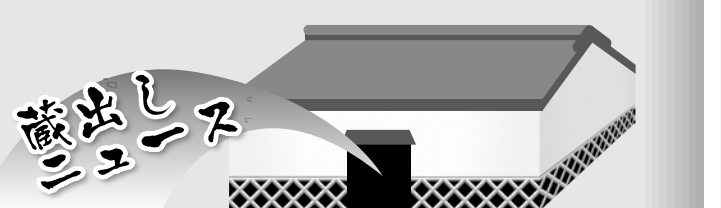
サッカー班のリーダーを務めた岡小4年の高田稜人さんは「選手たちとサッカーするためにがんばって準備した。実現できてとてもうれしかった」と喜んでいて。また、風船班リーダーの伊丹小4年、森本真緒さんの母親、恵美さんは「夢を形にできるということを子どもたちが学べた。貴重な経験になったと思う」と話していた。

（学年はすべて開催当時）

ことば蔵はこのほど、本のしおりが出来栄を競う「第4回しおりんピック」の金メダルに神奈川県川崎市の会社員、森川詩織さん（28）、また「第4回KTB（蔵）おすすめ本総選挙」のセンター本に伊丹市のバート、安東優汰さん（25）をそれぞれ選んだ。

しおりんピックには、全国から150点の応募があり、画家で市芸術家協会代表幹事の北里桂一さんが審査した。金メダル以外の入賞者は次のとおり。▽銀メダル▽新潟県五泉市の塚野さやかさん▽銅メダル▽愛知県名古屋市の庄山なな実さん▽来館者の投票で決まる「ことば蔵賞」▽名古屋守山区の尾関裕美さん

KTBおすすめ本総選挙では、



しおりんピック「金メダル」に森川さん、
おすすめ本総選挙「センター本」に安東さん

全国から送られてきた38点の推薦文を選挙ポスターのように、ことば蔵館内に掲示、来館者に呼びかけて一番読みたくなった本（推し本）に投票してもらった。

最多票を獲得した安東さんのおすすめ本は小説「終末なにしてますか？ 忙しいですか？ 救ってもらっていいですか？」（枯野瑛著／角川スニーカー文庫）。安東さんは「この作品に最初に出会ったのはアニメだった。そこから本に出会い、夢中で読んだ。400字では語りつくせない魅力があるので、是非読んでみてほしい」と話していた。推薦文は以下のとおり。

◇ ◇

いつまでも、一緒にいるよと誓った。

誓えたことが、幸せだった。この人のことが、好きだなと思った。思えたことが、幸せだった。

幸せにしてやると、言ってもらえた。

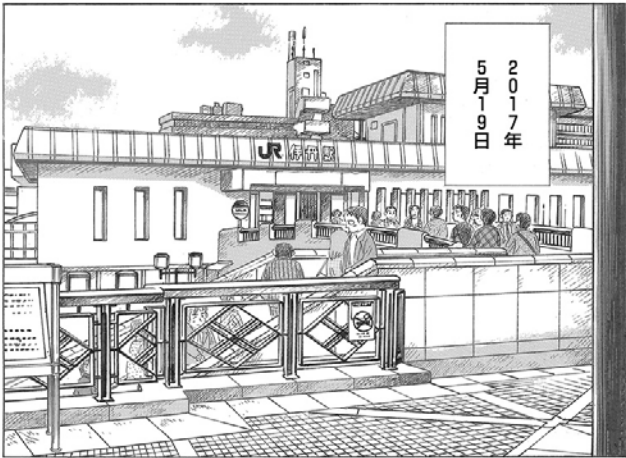
言ってもらえたことが、幸せだった。

こんなにもたくさんの幸せを、あのひとに分けてもらった。だからきっと、今のわたしは、誰が何と言おうと、世界で一番幸せな女の子だ。

この物語は、15年間という短い月日を、精いっぱい生ききた妖精兵の女の子の物語である。最強にして最高の涙を、あなたに。

伊丹のPR漫画完成

漫画「味いちもんめ」とコラボ



倉田よしみさんの人気漫画「味いちもんめ」の主人公、伊橋悟とその仲間ボンさんが、伊丹の見どころを

紹介する漫画冊子「おいしい！住みたい！大好き！な伊丹」が、このほど伊丹市から発行された。

倉田さん作・画によるこの冊子はA5判36ページ。倉田先生が客員教授を務める大手前大学と伊丹市がタ



「おいしい！住みたい！大好き！な伊丹」10ページより

伊丹で一番にぎやかなイベントである伊丹まちなかバルの話から始まり、登場人物が伊丹のまちの見どころや料理のうまい店を次々に紹介。もちろん、ことば蔵も登場し、ボンさんが「公園のような図書館」と感想を述べている。

現代人物風景

「はち巻子」を名乗り、デコ巻き寿司の講師として伊丹を拠点に国内外で活動している。

デコ巻き寿司は、千葉県郷土料理「太巻き寿司」が進化したもので、具材や巻き方を工夫することで切った時に美しい花やかわいい動物などの柄を描く。

「お寿司をカットした瞬間のわくわくどきどき感がたまらないです。この感動は巻いた人しか味わえません」と、若生さん。

10年前から伊丹に住む2児の母親。小さいころから折り紙が得意で、好きな料

目は図工だった。4年前の正月に姉からデコ巻き寿司の画像を見せられ、「工作みたい」と一目ぼれ。2ヵ月後には講座に通い始めた。

自宅で作ると、食の細い息子が「かわいい」というだけで食べてくれた。いつそこれを仕事にしようと、カルチャーセンターの講師募集に応募。半年後には、事務系の仕事をやめ講師業に転職した。

翌年には海外でも教室を開催。シンガポール、その2年後にはスウェーデンやイギリスにも教えに行った。現在は、大阪などで毎月定期的に教室を開き、女性を中心に年間延べ約500人の生徒に教えている。

海外へ留学、赴任する人、日本にいながら自力で外国人に教えた人、自分

自身も楽しみながら孫にも作ってあげたいと考える人、患者さんに四季を感じてほしいと願う病院の職員など、生徒はさまざま。中には料理の腕前がプロ級の人もいるそうだ。

若生さんは、カットした時の断面の色合いがきれいでおいしいデコ巻き寿司のレシピを常に考案。その数は今や約80種類を超える。一昨年の11月にはレシピ本を出版、今春にはその台湾語版も完成した。

今後は、独創性を前面に出し「デコロールずし作家」を名乗って活動していく方針。「デコ巻き寿司は、日本の食文化の一つとして海外でも人気が高まっています。私の生徒さんたちが、デコ巻き寿司をきっかけに世界中の人と仲良くなってくれたらうれしいですね」と、笑顔を見せていた。

(龍田起代子)

若生さんのブログはこちら

<https://ameblo.jp/nanairo-roll/>



日本の食文化を伊丹から発信

写真協力=西田写真館

デコロールずし作家

若生久美子さん(40)

赴任する人、日本にいながら自力で外国人に教えた人、自分



郷土産品紹介

老松酒造の酒粕香る「酒粕羊羹おにぎり」

平成23年(2011)の発売以来、伊丹の郷土土産として人気のある上品な味の羊羹だ。

この羊羹は、清酒発祥の地「伊丹」をアピールする新商品という伊丹市の依頼を受け、西洋懷石アンシャンテが開発した。商品名の「おにぎり」とは、江戸期・伊丹の生んだ偉大な俳人、上島鬼貫のこと。松尾芭蕉と並び称された鬼貫が酒造家の三男として生まれたことから、その名前がついた。パッケージの裏には「咲くからに、みるからに、花の散るからに」と、彼の句が添えられている。

材料には、希少種である、岡山産の白小豆と北海道産の白丸小豆、伊丹老松酒造の吟醸酒粕を使用。口に入れた瞬間、酒粕の豊潤な香りが広

「伊丹の漫画」大賞に原田后子さん

「伊丹」テーマの1コマ・4コマ漫画



大賞受賞作品

ことば蔵はこのほど、「伊丹」をテーマに募集していた1コマ・4コマ漫画の大賞に伊丹市の主婦、原田后子さん(29)の作品を選んだ。

2月1日からの募集に市内外から40点の応募があり、料理・グルメ漫画「味いちもんめ」で知られる漫画家大手前大学



賞状を手に笑顔の原田さん

客員教授、倉田よしみさんが審査した。

原田さんは「大好きな伊丹でこのような賞がとれてとても嬉しいですよ」と話していた。優秀賞は、伊丹市の中島英子さん(46)、川西市の中村光孝さん(50)の2人。

「西洋懷石アンシャンテ」

月曜定休(祝日の場合は翌日)

伊丹市中央3丁目2-27

☎ 072・777・2741

伊丹俳壇

「暮(ひきがえる)」坪内稔典 選
(佛敎大学・京都敎育大学名誉敎授、
柿衛文庫也雲軒塾頭)

最優秀賞

友達になろう日暮れの暮 山田 信子 (伊丹市)

半世紀くらい前まで、たいていの家にわが家のヒキガエルがいた。植木鉢の陰や床下に住んでいた。ヒキガエルは屋敷内の害虫たとえばハエや力を退治してくれていた。
私は今でもそんなヒキガエルを友にしたい気分だ。

優秀賞

こつから先は奈落と暮 堺 紀彦(滋賀県高島市)
暮の声介護施設に母を訪う しゅらん(伊丹市)
暮かこみ掴みたき子や五六人 直雅 (伊丹市)
ひきがえるまだ平成の土の中 渡辺 啓子(神戸市西区)
暮いつも仲好し小好しなの 諸富 千歳(伊丹市)

伊丹歌壇

「買い物」尾崎まゆみ 選
(玲瓏) 選者。神戸新聞文芸短歌選者。
現代歌人協会会員)

最優秀賞

黒鶏と林牧場の豚もいる神戸牛だけいないレシート 知地 一代(神戸市西区)
黒鶏と林牧場の豚と神戸牛がいるのは、買い物かごの中かなと思つと、レシートの中。一言だって最後まで読まないと、どんな返しがあつたりする。だから短歌は面白い。

優秀賞

淡淡とたと押したる実印が今さら赤い家を買う日に 須磨 堂(神奈川県鎌倉市)
若き日に挑みし歌集買い直すなど読めども塚本邦雄 藤田 晋一(宝塚市)
凋落のシンボルマークとされる町日曜日にはバザールがある 堺 紀彦(滋賀県高島市)
夕焼けに背中押されるようにしてサンダル履きて行く商店街 海実 (山形県鶴岡市)
目的がある時だけが買い物か何気に巡る其れも乙なり 家内 守(愛知県丹羽郡)



次回の兼題は、俳壇は「芋虫」、歌壇は「絵本」とします。応募は 1 人各 1 作品、自作未発表作品に限る。応募締切は、7 月 15 日(必着)。最優秀賞には図書券千円進呈。左の QR コードを利用すると、ケータイからも応募できる。問い合わせは、ことば蔵へ。

シンプルの正体とは

6 月 16 日から デイック・ブルーナのデザイン展

市立美術館

「ミッフィー」で有名なオランダ

人絵本作家デイック・ブルーナ(昨年死去)のデザインの仕事を紹介する展覧会が 6 月 16 日から 7 月 29 日まで市立美術館で開催される。

ブルーナは家業の出版社で装丁などのデザインを担当。昭和 30 年(1955)にスタートした推理小説の「ブラック・ベア」シリーズは、安価なペーパーバックで出版されて人気を集め、ブルーナは年間 150 冊もの装丁を手掛けることもあった。ちなみにこのブラック・ベアは目が赤いのだが、本が面白くて夜中まで読みふけていたからだそう。「この本は面白い」と、暗に伝えている

ところもさすがだ。

ブルーナは「ぼくがシンプルを追い求めるのは、デザイン的な美しさということだけでなく、そこにイマジネーションの余地を残したいからなのです」と語っている。

彼はブラック・ベアを生み出した同じ年に、「nintje」(ニンテンチェ)という、うさが主人公の絵本を発行した。このうさが、日本では、「うさこちゃん」「ミッフィー」の名前で知られることになる。今回の展覧会では、ペーパーバック、デザイン原画やスケッチ、ミッフィーやボリスの絵本原画などが約 500 点展示される。



BLACK BEAR © copyright: Dick Bruna

また、ブルーナ作品から

インスピレーションを受け日本で活躍する気鋭のデザイナー 4 組の新作も展示。彼の影響が現代にどのような波及しているかも垣間見ることが出来る。

見る人の想像力をふくらませ、味わい深い豊かな世界へと誘うブルーナのデザイン。その「シンプルの正体」に迫ってみよう。

入場料は一般 700 円、大・高校生 350 円、中・小学生 150 円。問い合わせは同館 ☎



林やよい
伊丹市在住。毎日新聞兵庫版にイラストエッセイ「くるまいすまい」を連載中。

072・772・7447へ。

(丸 晴子)

7 月 14 日に短歌セミナー

牧水の没後 90 年記念し長寿蔵で

歌人、若山牧水の没後 90 年を記念した短歌セミナー「酒と旅と人生」(産経新聞社主催、伊丹市後援)が 7 月 14 日、白雪ブルワリービレッジ長寿蔵(中央 3)で開催される。午後 1 時半から伊藤一彦・若山牧水記念文学館館長による講座のあと、短歌の作り方が学べるワークショップや日本酒の試飲などが行われる。

定員 70 人。参加無料。6 月 29 日までに(必着)はがきなどで申し込みが必要。問い合わせは同社 ☎ 6633・9526へ。



▼冷や酒と親の意見は：

冷や酒は、冷えた酒(冷酒)ではなく常温の酒のこと。「あとから効く」と、よく言われる。

吟醸酒のブーム以来、冷やで飲む形が定着してきた。特に、これからの季節は燗よりも、冷やが美味しく感じられる。それでもやはり冷や酒を敬遠する人もいます。で、この格言は根強く残っているようだ。

ウーワオオ、ワオー
ワオー、ワオー。夜明け前、誰かの泣き声のような騒音で起されてしまう。ギアウー、ウーギアオ、ミヤーン、ミヤミヤ、アアーン、アオアオー。また違う泣き声も聞こえてくる。

これは派手派手な猫の恋らしい。一年に数回あるらしいが、最も激しいのは春。飼い猫が家を飛び出して幾日も帰って来ない。お帰りになった時はやつれて顔にキズ。公園では追っかけてっこしているのをよく見かける。楽しんでるなあ。

路地裏、路地裏に猫が猫を追いかけて、猫を誘いに来る。ある日の銭湯帰りの道端で、遠慮もなくペルシヤ猫が三毛猫の背に覆いかぶ

もちろん、冷や酒が悪い、酔いやすいという科学的根拠はない。いい冷や酒は口当たりが良いので、つい飲みすぎてしまう。ワインでもビールでも飲みすぎれば、深酔いするのは当然だ。気分良く酔うためにも、「ほどほどに」。

親の意見は、冷や酒とは違い、口当たりは良くないが、じわじわ効いてくる。拙者が一番、そう思うのは受験と就職の時。どちらも最終的には自分が決めたのだが、結果的に親の意見どおりだった。あとでじわじわと、これで良かったのだな、と感じている。

▼出会いに感謝
昨年から漫画「味いちもんめ」の倉田よしみ先生と仕事を通して、ご縁ができた。以来、ホントに世話になり、伊丹を PR する漫画まで描いていただいた。拙者に似ている人(実物は格段に落ちるが)のイラストを今回から使わせていただくことにした。出会いに感謝！そして乾杯！
(ときわ喜多)



猫の恋

さつていた。さすがにびつくり。おつとおつしたんだ。そろりそろりと振りかえり振りかえりながら夜道を家路に。
ある時、猫の泣き声がこわかったので小石を投げて走って帰った記憶がある。二十年前だったか、越前岬の断崖絶壁。波の音がするなか、松林の方で低いその様な声でした(なぜかサザエのつば焼きの匂いがしていた)ので近づいていくと……。

また今朝も猫が誘いに来ている。ウーウー、ウー。近頃は泣きまねをして応援している。

猫の恋

流行りの縞の服を着て

(平 きみえ)

